

第7回 川とまちの寄り合い会議



川を感じる

～みんなの感覚ってどんな感覚？～



2008年3月16日、「川とまちの寄り合い会議」を開催しました（コープイン京都）。「寄り合い会議」は、フォーラムの活動の節目として開催しています。今年は78名（子ども30名 / 大人48名）の皆さまにご参加いただきました。子どもたちの1年のまとめの成果が表れ、お陰さまで、なんとか無事に終了することが出来ました。お忙しい中ご参加いただきました皆さま、ありがとうございます。子どもたち自らが考えた今回のメインテーマは、「感覚」。ほんの一部ですが、会議の様子をお伝えします。



子どもたちの発表



グループに別れて話し合い



初コーディネーターに挑戦



意見の交換は、立場を越えて



- 全体司会進行
 栗木千明（中学校2年）
 子ども会議コーディネーター
 東出一真（中学校1年）
 三谷貴大（中学校1年）
 子どもと大人会議コーディネーター
 三谷英里（高校1年生）
 大人一重円参加者
 芹田 彰（京都市建設局水と緑環境部部長）
 藤田裕之（京都市教育委員会生涯学習部部長）
 森 吉尚（京都府土木建築部 理事）
 吉田延雄（国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 所長）

子ども川とまちのフォーラム
 がわら版

2008年5月31日発行
 第12号
 NPO法人
 子ども川とまちのフォーラム
 〒604-8522
 京都府京都市下京区東山町11
 TEL: 075-231-5360
 FAX: 075-496-8248



もくじ

第7回川とまちの寄り合い会議・・・1・2
 話し合い・桂川歩き・鴨川歩き・・・3
 大阪貝塚「井戸端会議」参加・・・3
 滋賀安土西の湖訪問・・・4

子どもと大人の寄り合い会議

生物にとってのいい川、
 人間にとってのいい川

◇子ども・・・人間にとってコンクリートの川は便利だけど、魚にとっては棲みづらい。「生き物だけ、人間だけの目線では偏りがでてくるので、それぞれの立場に立って考えることが大切」
 ◆芹田さん・・・「都会の中で川に自然が見られるのは、水が生命を運んでくるから。今までは水を速く流すことばかり考えていたが、そこに棲む生き物や自然にも目を向けるようになってきた。市街地が増えて田んぼなどがどんどん少なくなっている中、身近な自然が川に追いやられてしまった。そのことを、子どもたちが大人たちより先に理解している」
 ◆藤田さん・・・「人々が関心を持つことで、人が集まるきっかけになる。コミュニティの再生のために、川はすごく大きな役割を果たしていると思う」
 ◆宮本博司さん（フォーラム理事）・・・「コンクリートのない昔は、石で頑丈な建物や城の石垣を造っていた。コンクリートが悪いとい

うのも思い込みだし、コンクリートが必要だというのも思い込み。なぜかと考えることが大切。そうなんだと思ってしまうことがあぶない。感動が人を動かす、人を集める。大人は感受性が鈍くなっている。私にとって、子どもの会議はいつも新鮮」

私たちの活動を
 広げるためには・・・？

◇子ども・・・「今の子どもたちは、川や生き物に関心がない。触れ合う楽しさを感じていないみたい。活動をどうやって広められるか、意見を聞きたい」
 「楽しさをアピールする」「友達と一緒に川に行つて、魚をとって遊んでいる」「話すだけではだめだけど、実際に川に入つて遊ぶと、興味をもってもらえて、また川に入るうって言うてくれる」
 「伯母川の川の上流に行つた時に、川の周りに木がたくさん生えていて、木漏れ日がきれいだったことを憶えている。だから、もつと木や植物を植えて欲しい」
 ◆吉田さん・・・「毎回、みんながほんとによく考えていると感心する。ぜひ活動の輪を広げてほしい。川に行くのが楽しくなるにはどうすればいいかを考えてもらいたい」
 ◇子ども・・・「もつとみんなが川を楽しめる環境を作っていくことが大切。そのためには、子どもだけでなく、子どもを取り巻く環境も一緒に変えていかなければ。私も